

# カタカムナ医学校マスター講座 第4回

## 超立体の中心図形を読み解く

ウタヒの中心図形の本来の姿は、高次元の超立体です。そのため一つの三次元立体として表すことが出来ません。

このような中心図形を表すには、複数のモデルが必要となります。

04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、おじれの意味

## 第8章

# 超立体ヤタノカガミの考察 ～①裏表のモデル編～

数を使って人の周りに  
時空を誘導する

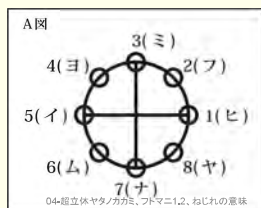
04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、おじれの意味

2

## ヤタノカガミに数字を

カタカムナ関連の本には、ヤタノカガミの小円に1から8までの数字が反時計回りに書かれているのをよく目にします。

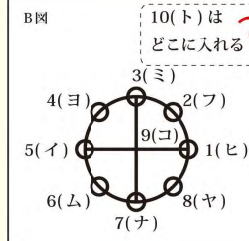
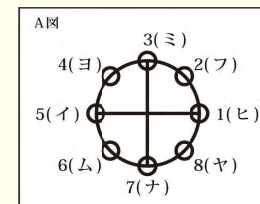
ウタヒ第5首には、ヒ(1)フ(2)ミ(3)ヨ(4)イ(5)ム(6)ナ(7)ヤ(8)コ(9)ト(10)と1から10まで数字が書かれているので、ヤタノカガミの小円に1から8までしか数字が入られていないのには違和感があります。何とかしてヤタノカガミに1～10までの数字を入れられないか検討しました。



04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、おじれの意味

3

十字の中心にも一個入れることができるので、1～9までは数字を入れることが可能です。しかしこのままでは10は入れることができません。一体どうすれば、ヤタノカガミに10を書き入れることができるのでしょうか。



04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、おじれの意味

4

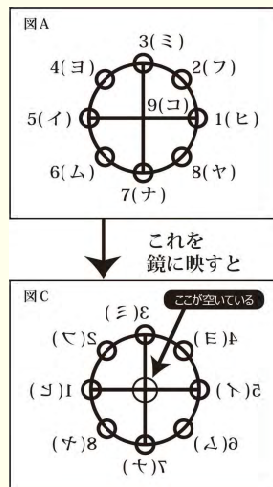
## ヤタノカガミの裏に10を

カガミという言葉から、ヤタノカガミの図像を鏡に映してみることにしました。すると、ヤタノカガミには裏があることが分かりました。これで10を入れる場所がなかったという問題を解決することができます。

裏を見ても、1～8はすでに埋まっています。この場所に10は入れられません。

10の数字を入れる場所はないかと探してみると、裏の図形Cの中心の一つ、10の数字を入れるスペースがあることに気づきます。

これで1～10の数字をヤタノカガミに入れることができます。次はどのように表と裏のヤタノカガミに1～10の数字を入れていくかです。



04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1.2、おじれの意味

5

## 数字を入れる

ヤタノカガミの図Aや図Bの数字の入れ方は、カガミの意味を説明するために便宜上つけたものでした。ここからは、ヤタノカガミに正しい数字をつけていく過程を示します。

04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1.2、おじれの意味

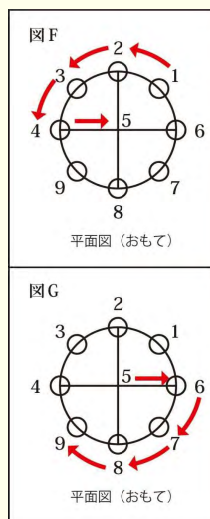
6

まずは図Fのように、時計でいえば1時半にあたる位置から、1234までの数字を反時計周りに入れていきます。なぜ1時半の位置から始めるかというと、3時の位置から始めると6がヤタノカガミの中心にきて、5がヤタノカガミの中心に来なくなるからです。

ウタヒ第4首にあるイハトワニカミナリテの意味は、イ(5)は永遠に神なのでという意味なので、イ(5)は中央に位置しなければなりません。

次に、4から球体の表の十字の中心に向かって道があるので、それを通って中心に行き、そこに十字の中心に5を入れます。(図F)5から6へは、道(十字の水平方向の線のこと)があるので、それを通って6までいきます。ウタヒ第5首にヒフミヨイ マワリテメクル ムナヤコトと書かれているので、6～9は時計周りに数字を入れていきます。

これで、1～9まで数字を入れることができました。(図G)



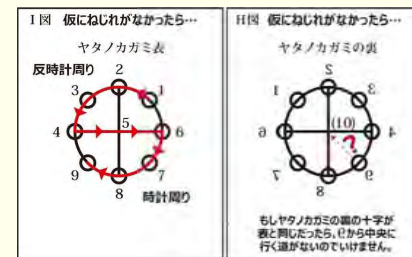
04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1.2、おじれの意味

7

## 最後に10を入れる

6～9までの数字を入れ終わったら、最後に10です。

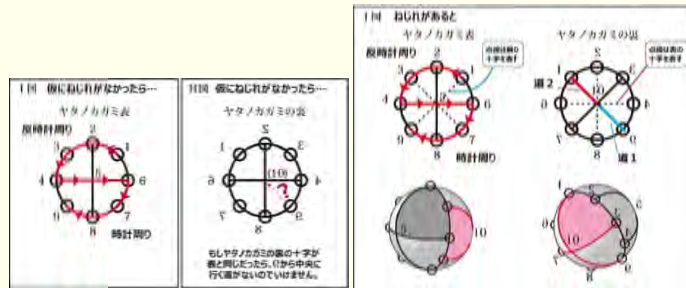
10を入れる場所は、5の真裏にあります。図Hは、ヤタノカガミを裏から見た図です。9から10に行くためには、ヤタノカガミの表を4→5→6と道に沿って進んだように、十字の道を通らなければなりません。ところが、裏の十字が表と同じ十字だと仮定すると、9→10へ行く道がないのです。



8

9→10へ行く道をつくるには、表の十字と裏の十字は45度の角度でねじれの関係になければなりません。ねじれがあると、J図の右側のように、9から球体の真裏の10に、十字の道の一部を通してスムーズに行くことができます。

さらに、10にいった後は、道2があるため、再び1に戻ることができます。こうして1から10にいった後、再び1に行くという永続的な循環が生まれます。

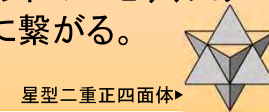


04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、ねじれの意味

## まとめ

- ヤタノカガミの表と裏に1～10の数字を入れることができました。このとき、9から10へいくには、表から裏に回り込むという方法を取っています。これはまさに、ウタヒ5首のマワリテメクルを意味します。
- マワリテメクルは、平面的な回転だけでなく、立体的な回転を意味していたのです。そして、もう一つ大切なことは、ヤタノカガミの表と裏が45度でねじれているということです。

この45度のねじれは、フトマニモデルの一つ“星型二重正四面体”に繋がる。



星型二重正四面体▶

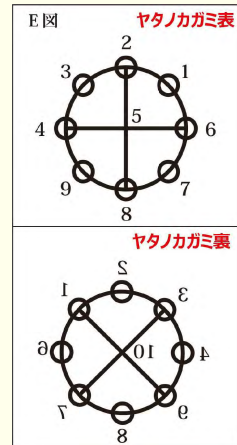
04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、ねじれの意味

## 【実用】ヤタノカガミ

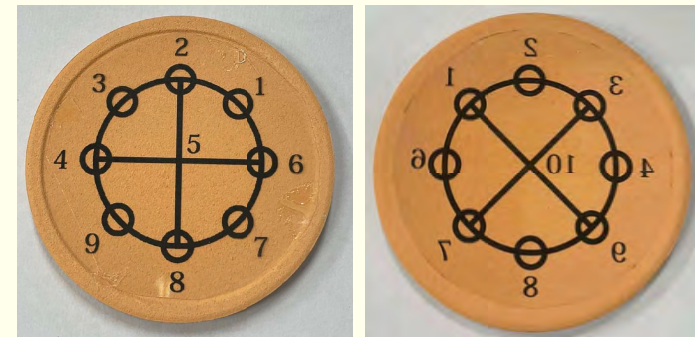
コースターに1～10の数字を書き入れます。

これを手に持ってウタヒを唱えると、完全で完璧な高次元空間が現れます。

ヤタノカガミの表と裏が45度の角度でねじれの関係にあることは大変重要です。なぜなら立体のヤタノカガミ、立体のフトマニをつくるにはこの45度のねじれが必要不可欠だからです。



04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、ねじれの意味



04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、ねじれの意味

## 第9章

# 超立体ヤタノカガミの考察 ～②球体のモデル編～

前章で学んだヤタノカガミの理論を  
今度はヤタノカガミの立体をつくるために応用します。

これで次元・時空間を変えて  
人を癒すことができます。

04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1.2、おじれの意味

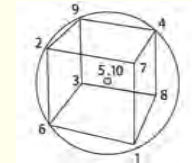
13

## ヤタノカガミの立体球

ヤタノカガミの本来の姿は球体です。したがって、球体の表面に均等に8個の小円を配置したものがヤタノカガミの本来あるべき姿です。ただ私たちは球に均等に8個の小円を配置することに慣れていません。そのため、球に内接する正六面体を使います。

8個の頂点をもつ正六面体が円に内接した時の8個の接点  
が、球体にバランスよく8個の小円を書くことと同じになります。円で考えると難しいことも、正六面体に置き換えて考えると理解しやすくなります。

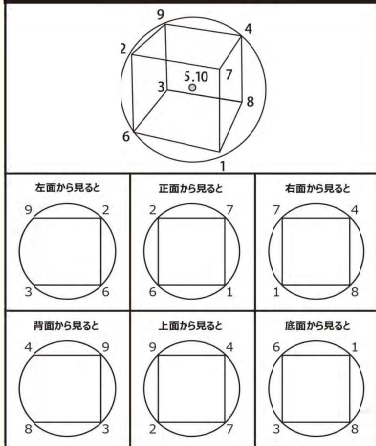
これは、球の話を立て方(正六面体)として話すことができるということです。前章で培った知識をフルに使って、まずは立体(正六面体)のヤタノカガミをつくりあげていきましょう。



04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1.2、おじれの意味

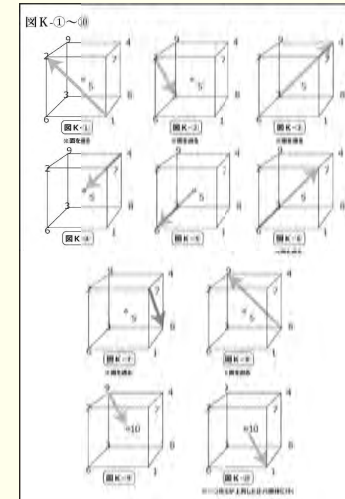
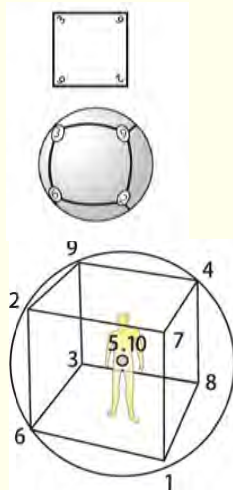
14

### 球に内接する正六面体



04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1.2、おじれの意味

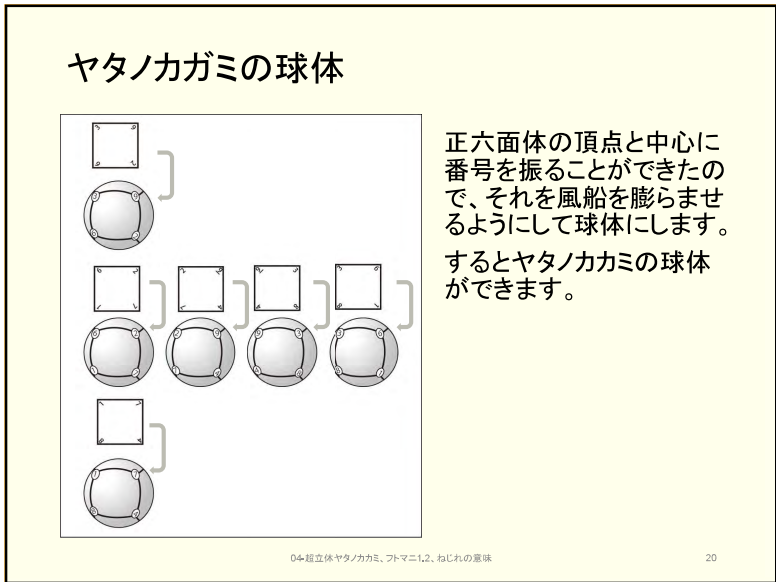
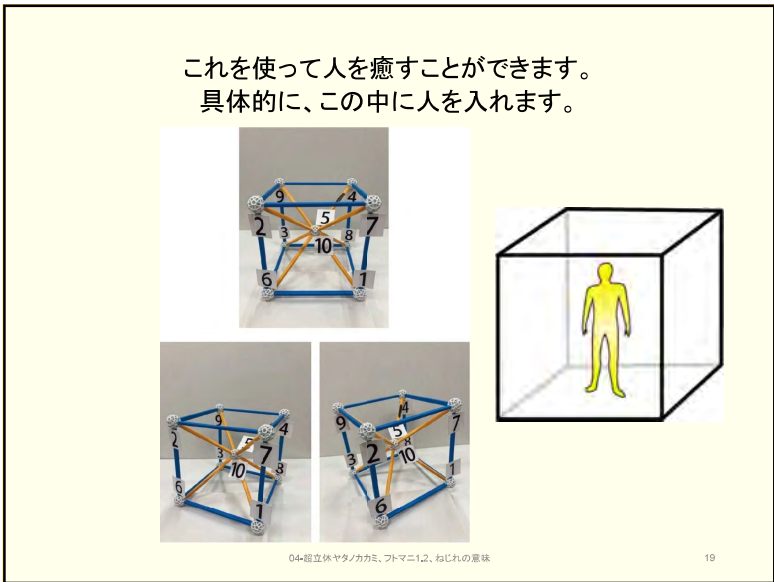
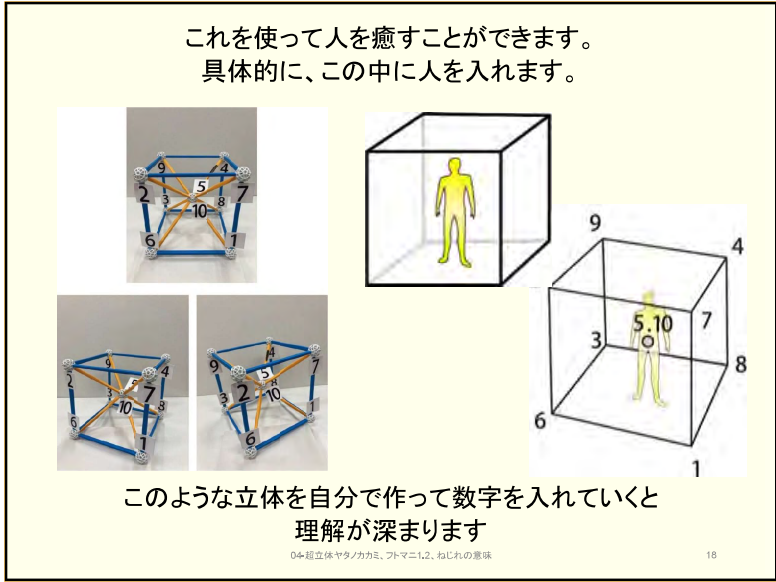
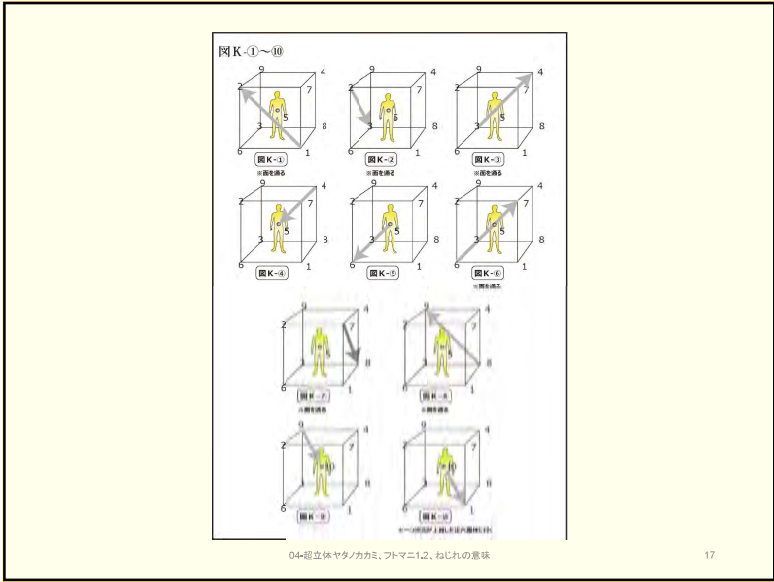
15



- 正六面体で考える  
では正六面体に数字を書き入れていく方法を 図Kをもとにみていきましょう  
次の①～⑩に進みます。図K①～⑩
- ① 1からスタートして、左斜め上の3に行きます。(図K①)
  - ② 2から斜め下の3に行きます。(図K②)
  - ③ 3から右斜め上の4に行きます。(図K③)
  - ④ 4と5、5と8は面を横切るのでなく、正六面体の中心点、これは正六面体  
球が内接する球の中心でもある。正六面体の中心点、これは正六面  
球の形を割くのでカタチが、等しい。直線の最後の句と表現されいます。
  - ⑤ 6から右斜め上の7に行きます。(図K⑤)
  - ⑥ 7から斜め下の8、8から斜め左の9に行きます。(図K⑥)
  - ⑦ 9と10は正六面体の面を斜めに横切って行きます。
  - ⑧ 9と10は正六面体の中心10は正六面体が内接する球の中心でもあるを  
通って行きます。一桁が二桁の数字になり、次元が二つ上昇します。(図K  
⑧)
  - ⑨ 10から二つ次元が上昇した正六面体の1に行きます。(図K⑨)
  - ⑩

04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1.2、おじれの意味

16



これを頭の上にポンと置くと、頭蓋骨から尾骨までが一瞬で整います。これは一つの奥義です。

04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1.2、おじれの意味

21

## 第10章

# ヤタノカガミと洛書

洛書をいつか立体にしたいと思っていました。思考錯誤をしてきましたがうまくいきませんでした。ところが、その答えはヤタノカガミの中にあっただのです。

04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1.2、おじれの意味

22

## 数は宇宙の法則を表すための記号

数とは、宇宙の法則を表現するための手段として生み出された記号なのです。だから数で宇宙の法則を表現することができます。

04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1.2、おじれの意味

23

## 洛書とは

洛書とは中国古代より伝わる「宇宙のエネルギー」をあらわす2つのきわめて数学的な風水の図形『河図洛書』のうちの一つ。洛書に描かれている数字の配列、たて、よこ、ななめ、3つの連続する数を足すと必ず15になります。

○○○○○○	●●●●●●
●●●●●●	○○○○○○
○○○○○○	●●●●●●
●●●●●●	○○○○○○
○○○○○○	●●●●●●
●●●●●●	○○○○○○
○○○○○○	●●●●●●
●●●●●●	○○○○○○
○○○○○○	●●●●●●
●●●●●●	○○○○○○

河図

7	2	
8	3	5
1	6	4

河図=10数図

4	9	2
3	5	7
8	1	6

洛書=9数図

04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1.2、おじれの意味

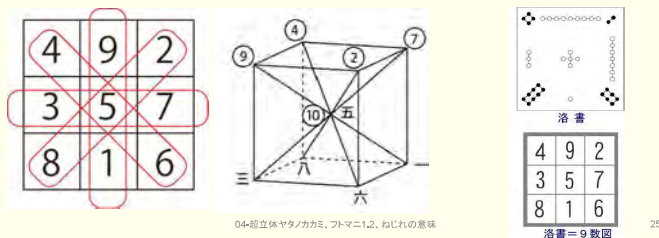
24

## 洛書

5(イ)は、洛書の中心を表します。洛書とは、3×3の魔方陣で、縦横斜めのどこを足しても15になる図のことをいいます。河図は、元々はカタカムナからきたものです。

第5首のヒフミヨイムナヤコトが洛書の本質です。

た



04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、おじれの意味

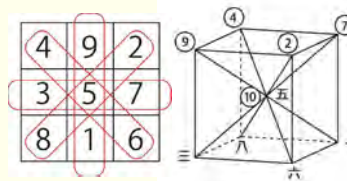
25

## ヤタノカガミと洛図

正六面体の線に注目すると、【9 - 5 - 1】を一直線に結ぶラインがあります。また、【4 - 5 - 6】、【2 - 5 - 8】、【3 - 5 - 7】のラインもあります。これは洛書でいうと、囲ったところを示します。

また、面に注目すると、【2 - 4 - 9】を結んでできる三角形の面があります。その他、【3 - 4 - 8】、【1 - 6 - 8】の面もあります。これは洛書でいうと、二重線で囲った部分になります。

正六面体のヤタノカガミと洛書は、立体と平面という次元の違いはありますが、同じことを表現しています。洛書の立体バージョンが立体ヤタノカガミなのです。



04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、おじれの意味

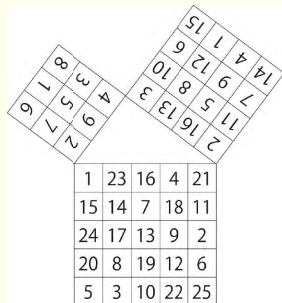
26

## 魔方陣の補足

言葉でDNAの謎を解く  
著：招島教義

魔方陣という言葉から、魔力のようなものをもつと思われがちだ。しかし、「マ」というコトバが意味しているのは、カタカムナにおける間を意味する。時空間の間は、あらゆるものを生み出す働きを意味している。

「マハウジン」は、単なる数遊びではなく、人の周囲の空間を制御する数理論である。



04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、おじれの意味ピタゴラスの定理と方陣

27

## 第11章

### 超立体フトマニの考察 ～①正八面体のモデル編～ ～②球体のモデル編～

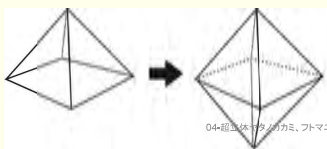
ウタヒ第3首「フトタノ ミ ミコト フトマニニ」から中心図形フトマニを複数のモデルで読み解きます。

04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、おじれの意味

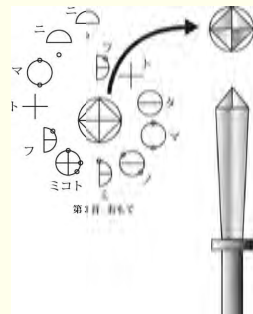
28

### 第3首 フトタマとフトマニ

ウタヒ第3首は、「フトタマノ ミ ミコト フトマニニ」です。  
 まずウタヒの中心図形であるフトマニに注目してみましょう。  
 フトマニは、一見すると剣の切先を上から見たような形をしています。  
 また、フトマニはピラミッドを上から見た形にも見えます。さらに、フトマニはピラミッドを上下に2つ、底面で合わせた正八面体である可能性があります(A)。しかし、これらはフトマニの一側面に過ぎません。



04-超立体ヤタノカミ、フトマニ1,2、おじれの意味



29

球体に4個の円を書きます。そして、それを上から見ると平面のフトマニと同じに見えます。フトマニの直線に見えていたところは、実は円の一部です。これらことから私は、立体のフトマニは直線(ピラミッドが上下に重なったフトマニ)と円(球に4個の円が書かれた球体)の両方の性質を併せ持った超立体だと考えています。

#### 超立体フトマニの球体のモデル

4つの円をより大きな球の中に書き込み、その球を上下から見ると平面のフトマニと同じになる



04-超立体ヤタノカミ、フトマニ1,2、おじれの意味

30

### 「フトタマノ ミ ミコト フトマニニ」のフトタマとは

ウタヒ第3首のフトタマについてのお話です。

第5首には数字を表すヒフミヨムナヤコトという言葉があります。この数字を表す言葉からすると、フトタマのフは2を、トは10を表すので、「フト」は2と10で20を意味することになります。「タ」は座標を表し、「マ」は時空間を表します。「タ」と「マ」が一緒になった「タマ」は、座標が示す場の空間を表すとともに、球を表します

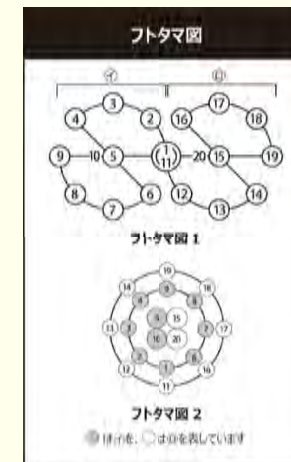
04-超立体ヤタノカミ、フトマニ1,2、おじれの意味

31

そして、フトタマ図1にはタマは20個あり、20の座標が示す空間が存在します(フトタマ図1)。

フトタマ図の一つ一つの円は、一つ一つの座標が示す場の空間であり、木にたわわになった実を例えてフトタマノミ(実)と表現されています。フトタマノミコトのミコトとは理(ことわり)、法則を表します。その法則とは、どの順番でフトタマノミが進んでいくかということです。具体的には、フトタマ図1のように一つ一つの座標が示す場の空間(実)に番号をつけていきます。フトタマ図を1~

20まで順番になぞっていくと、8を2つ並べたような形ができます。その二つの8の回り方は逆です(フトタマ図2)。この8と8が高次元へのゲートを開くカギとなるフトマニという形なのです。



04-超立体ヤタノカミ、フトマニ1,2、おじれの意味

32

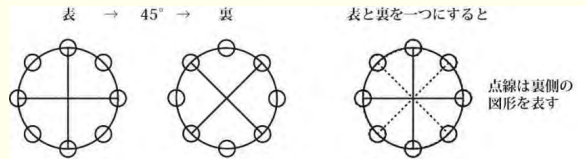




## 「ヤタノカガミ」のねじれ

図でみるように、中心図形ヤタノカガミの表と裏は、45度の角度でねじれの関係にあります。このねじれが、ねじれ場と呼ぶ三次元⇄高次元を可能にする空間を生み出します。ねじれ場がなければ、見える世界(現象界)と見えない世界(潜象界)は循環する事ができません。ねじれに関しては○章で詳しく説明します。

このねじれを使って、ウタヒの効果を上げる方法があります。円形のコースターに、45度のねじれ関係にある図を書いて、それを手に持ってウタヒを詠うという方法です。



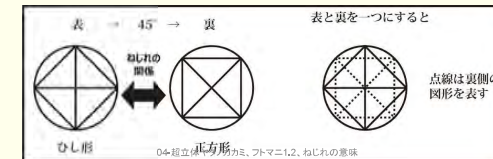
04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、ねじれの意味

37

## 「フトマニ」のねじれ

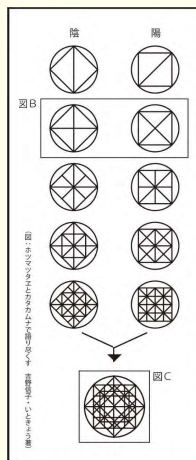
図でみるように、中心図形フトマニの表と裏は、45度の角度でねじれの関係にあります。フトマニの表と裏の形は同じでも、45度の角度でねじれると、ひし形が正方形になります。このねじれが、ねじれ場と呼ぶ三次元⇄高次元を可能にする空間を生み出します。ねじれ場がなければ、見える世界(現象界)と見えない世界(潜象界)は循環する事ができません。

フトマニの表と裏がねじれた図は、カタカムナより後の時代の文字であるラシテ文字の原形(図C)へ受け継がれてきます。このことから考えても、表と裏が45度のずれの関係にあることは間違いないと分かります。



04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、ねじれの意味

38

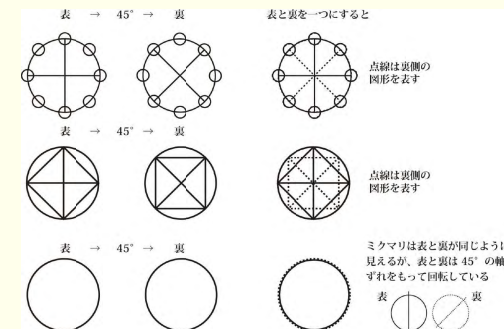


04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、ねじれの意味

39

## ねじれのまとめ

図でみるように、ヤタノカガミとフトマニの2つの中心図形の表と裏は、45度の角度でねじれの関係にある。このねじれが、ねじれ場と呼ぶ三次元⇄高次元を可能にする空間を生み出します。ねじれ場がなければ、見える世界(現象界)と見えない世界(潜象界)は循環することができません。



04-超立体ヤタノカガミ、フトマニ1,2、ねじれの意味

40